

# 世界史B 27 仏絶対王政、三十年戦争

## 1,フランスの絶対王政

16世紀フランス ユグノー(カルヴァン派)の増加→カトリック教徒と対立⇒( )**1戦争**(1562~98)

アンリ2世(位1547~59)の妃・摂政の**カトリーヌ=ド=メディシス**❖a(1519~89)の時

1562年 ( )**2の虐殺**=ギーズ公フランソワ(1519~63)の部下がユグノー虐殺→内戦開始

1572年 [ ]**3の虐殺**❖b→パリで多数の新教徒殺害

❖a--フィレンツェの[ ]4家出身。はじめ改革派と融和政策。子はフランソワ2世(位1559~60)=后はスコットランド女王メアリ、シャルル9世(位1561~74)、アンリ3世(位1574~89)。娘マルグリッドと改革派の指導者ナバラ公(ブルボン家=カペー家支流・イベリア半島北東部)アンリ=のちのアンリ4世=を両派の融和のため結婚させる。

❖b--そのためにパリに集まった改革派をカトリック派のギーズ公アンリ(1550~88)の軍が虐殺。アンリ3世(位1574~89)=カトリック派により暗殺=に世継ぎなく⇒**ヴァロワ朝**がたえる

( )**5 4世**(位1589~1610)が即位⇒( )**6朝**(1589~1792, 1814~30)

┌国内を統一するために( )**7に改宗**

└1598年( )**8の勅令**→新教徒にもカトリックと同等の権利をみとめる。

⇒西欧で初めて**個人の[ ]9の自由**を定めた。

**ルイ13世**(位1610~43) 宰相リシュリユー(任1624~42)

┌( )**10を停止**---王権に反抗する大貴族やユグノーに対抗→1615年から1789年まで開かれない

└**三十年戦争**(1618~48)では新教側を支持→( )11家に対抗

└フランス学士院を設立→文化を育成 フランス語→当時のヨーロッパ宮廷社会の国際語化

**ルイ14世**(位1643~1715) 宰相**マザラン**(任1642~61)

**高等法院**❖c、貴族、民衆の( )**12の乱**❖d(1648~53)を鎮圧⇒貴族勢力をおさえる

❖c--司法のほか律法、行政にも関与。世襲官僚による特権擁護のため王権と対立。1790年廃止。

❖d--三十年戦争のための重税に反対し一時パリを占領。フロンドは投石器。

ルイ14世親政期(1661~1715)=**フランス絶対主義の最盛期**「朕は[ ]13なり」「太陽王」

財務總監( )**14**(1619~83)→徹底した**重商主義政策**=輸入品に重税、外国人労働者の移入禁止など

┌( )**15会社**の再興(1664)

└輸出向けマニファクチュアの育成

豪華な( )**16宮殿**における宮廷文化→晩年には財政窮乏

外征 ┌ネーデルラント継承戦争(1667~68)→スペイン領南ネーデルラントを巡る戦争

└( )17侵略戦争(1672~78)→密約により第三次英蘭戦争(1672~74)と同時に行った戦争

└ファルツ継承戦争(1689~97)→仏に対抗するヨーロッパ諸国のアウクスブルク同盟との戦争

└( )**18継承戦争**❖e(1701~13)→スペイン=ハプスブルクがカルロス2世で断絶後

→財政を圧迫 国民は重税に苦しみ、**寒冷化・冷害**❖f(マウンダー極少期)も続く→**人口減少**と**農民一揆**

❖e--ルイ14世の孫アンジュ公フィリップがスペイン王フェリペ5世(位1700~46)に即位したことに対抗する英・墺・蘭との戦争。のちプロイセン、ハノーヴァーなどドイツ諸侯も参戦。

❖f--およそ1645年から1715年頃まで、太陽黒点が著しく減少した時期。テムズ川が凍るなどの寒冷化と冷害。

1685年 **ナントの勅令**( )**19** →新教徒の商工業者の亡命→フランス経済に打撃

1713年 ( )**20条約**→フランスとスペインが合同しないことを条件に

┌フェリペ5世の王位を承認→**スペイン**=[ ]**21朝**成立

└英国に( )**22**=現在も英領=など要地と米大陸の奴隷貿易特権=**アシエント**=を譲る。

└北米の( )**23湾**一帯、アカディア、ニューファンドランド島を割譲。

**ラシュタット条約**-墺には南ネーデルラント、ナポリ、ミラノ、( )**24**を割譲

[**重商主義**] アジア交易で金銀貨幣が絶え間なく流出したヨーロッパ

┌( )25により貨幣を獲得し富を増やそうとする思想→重商主義

└貿易の独占・保護貿易・造船・海運の奨励→商工業の発展に有利な状況

┌商業資本家による問屋制家内工業

└産業資本家による工場制手工業=( )26の登場

## 2,三十年戦争

17世紀西欧社会→**寒冷化、疫病・凶作、人口・物価下降、魔女狩り、戦争・内乱**→全般的危機の時代

神聖ローマ帝国 ┌225の領邦分立の状態→**アウクスブルク宗教和議**(1555)→分立いっそう進行

└新旧両派の諸侯の対立激化

1617年 熱烈な旧教徒の**フェルディナンド2世**(皇帝位1619~37)**ベーメン=ボヘミア**王に就任。

1618年 **ベーメン=ボヘミア**=の新教徒の反乱→( )**27戦争**(1618~48)=戦場はドイツ、東欧

┌ハプスブルクによるボヘミア・ドイツのカトリック化・新教徒弾圧。

└仏およびデンマーク・スウェーデン、英国などの介入→「対ハプスブルク同盟」(1624)

スウェーデン王**グスタフ2世**=( )**28**(位1611~32)---新式の軍制(旅団)、装備(大砲)、戦術→**ブライトンフェルト**の戦い(1630)ではじめて皇帝軍を破る。

└ハプスブルク→( )29隊長**ヴァレンシユタイン**(1583~1634)中心→スペインとむすんで対抗

└( )30=カトリック国→ハプスブルク家に対抗するために新教徒の側で参戦  
宗教戦争→主権国家間の**大国際戦争**化

1648年 ( )**31条約**❖g =世界最初の国際会議・条約

┌フランス---( )32とロレーヌのメッツ、トゥールなどを取得

└( )33---ドイツ内に領土=**ブレーメン**、**ポンメルン**など=をひろげる

└ドイツの領邦君主---完全な主権を認められる⇒神聖ローマ帝国の解体

→戦場となったドイツの人口は激減・経済も荒廃→市民層の発達が大幅におくれる  
諸領邦のなかでは、( )**34公国**が急速に台頭

❖g--英・露・ポーランドを除く西欧各国が参加。アウグスブルク宗教和議が確認されるとともに、( )35派もルター派と同等の権利を認められた。スイスとオランダの独立を承認。



サン=バルテルミの虐殺



カトリーヌ=ド=メディシス



アンリ4世



ルイ14世



ヴェルサイユ宮殿



三十年戦争

- ・貿易 ・傭兵 ・廃止 ・三部会 ・三十年 ・ナント ・アドルフ ・フランス ・オランダ ・スペイン
- ・アルザス ・東インド ・ヴァシー ・ユグノー ・フロンド ・ハドソン ・プロイセン ・カルヴァン
- ・ユトレヒト ・カトリック ・コルベール ・スウェーデン ・ハプスブルク ・ジブラルタル ・サルデーニャ
- ・マニファクチュア ・ウエストファリア